

令和7年度 第1回八戸市生活支援体制整備推進協議会 議事録

○日 時 令和7年10月8日（水）午前10時から午前11時まで

○場 所 市庁別館2階 会議室B

○出席委員 五十嵐 潤 委員、池田 右文 委員、荻ノ沢 哲也 委員、加藤 美幸 委員、
立石 真司 委員、中里 雅恵 委員、水溜 広 委員
※ 堀内 美佐江 委員は欠席

○事務局 町井 健二 高齢福祉課長、沼岡 裕子 地域包括支援センター所長、
柏崎 雄介 主査兼社会福祉士、佐藤 楓 保健師、
岩間 歩乃佳 主事兼社会福祉士

次第1. 開会

■司会（沼岡地域包括支援センター所長）

只今より、令和7年度第1回八戸市生活支援体制整備推進協議会を開会いたします。

本日の会議でございますが、委員8名中、7名の委員が出席していただいておりまして、半数以上の出席となってございますので、「八戸市生活支援体制整備推進協議会規則」第5条第2項の通り会議が成立することをご報告いたします。

それでは、開会にあたりまして、池田会長様よりご挨拶をお願いいたします。

■池田会長

はい。皆さん、おはようございます。

久しぶりの整備事業ですが、いろいろワークショップなども活動されているのを、今回皆さんと共有できるので、それも楽しみにしているのと、これから冬に差し掛かっていくにあたって、来年度の春に向けていろいろ皆さんと共有できればと思っておりますので、今日はどうぞよろしくお願いいいたします。

■司会（沼岡地域包括支援センター所長）

ありがとうございました。

続きまして、新たに本協議会の委員としてご参画いただく方をご紹介いたします。

生活協同組合コープあおもり理事、加藤美幸様です。

加藤様は、昨年度まで委員をされておりました橋本様に代わりまして、本日より委員としてご参画いただきます。それでは、加藤委員様より一言ご挨拶をお願いいたします。

■加藤委員

コープあおもり組合理事の加藤と申します。よろしくお願いいいたします。

前の方からも説明があったと思うんですけど、コープあおもりは色々なことをしております、平和のことについてとか、サニタリードライブとともに市社協さんの方にも届けたりとか、平和と食の安全とか、環境とか、色々なことに取り組んでおります。

助け合いの会のほうでも認知症講座というのを、勉強会とか学習会とかをしておりますので、今日は高齢者のいろいろお話をできればいいなと思います。今年度よろしくお願いたします。

■司会（沼岡地域包括支援センター所長）

ありがとうございました。

ここで委員の皆様をご紹介いたします。

- ・社会福祉法人吉幸会、五十嵐潤様です。
- ・株式会社池田介護研究所、池田右文様です。
- ・社会福祉法人みやぎ会三八城・根城地区高齢者支援センターみやぎ、荻ノ沢哲也様です。
- ・生活協同組合コープあおもり、加藤美幸様です。
- ・八戸学院大学、立石真司様です。
- ・社会福祉法人八戸市社会福祉協議会、中里雅恵様です。
- ・八戸市民生委員児童委員協議会、水溜広様です。

本日は欠席されておりますが、公益社団法人八戸市シルバー人材センター、堀内美佐江様です。

以上の委員の皆様で、日常生活上の生活支援体制の充実・強化、高齢者の社会参加の推進に向けて施策の検討などを行っていただきます。

続きまして、事務局の職員を紹介いたします。

- ・高齢福祉課長、町井健二です。
- ・地域包括支援センター主査兼社会福祉士、柏崎雄介です。
- ・地域包括支援センター保健師、佐藤楓です。
- ・地域包括支援センター主事兼社会福祉士、岩間歩乃佳です。

最後に、私は地域包括支援センター所長の沼岡裕子です。よろしくお願ひいたします。

それでは議事に入りますので、ここからの進行は、池田会長様にお願いしたいと思います。

次第2. 議事

■池田会長

はい。ありがとうございます。では、議事に入らせていただきます。

まず、最初ですけど、八戸市包括ケアシステム推進学生サポーター養成研修会の開催報告について、事務局より説明をよろしくお願ひします。

(1) 八戸市地域包括ケアシステム推進学生サポーター養成研修の開催報告

■事務局（岩間主事兼社会福祉士）

はい。高齢福祉課の岩間と申します。

私からは議事（1）八戸市地域包括ケアシステム推進学生サポーター養成研修会の開催報告について説明させていただきます。資料1-1をご覧ください。

研修会の目的ですが、本事業における協議体に位置づけ、例年開催しておりますワークショップに参加する意向がある学生を対象に、事前学習として本研修を実施することで、ワークショップにおける学生のより能動的な参加を促すことを目的に実施しており、平成30年度から継続して実施しているものです。

開催場所につきましては、学生の受講のしやすさを考慮し、八戸学院大学内の講義室をお借りして実施しております。

参加条件といたしましては、八戸学院大学または八戸学院大学短期大学部の学生であること、ワークショップへの参加意向を有すること、所属先のゼミの先生からのフォローアップを受けられること、としております。

なお、フォローアップの内容といたしましては、特別な対応を依頼するものではなく、学生のワークショップの参加調整や、学生がワークショップへ参加している様子を気にか

けていただくといったものを想定しております。

研修概要ですが、5月22日、23日、26日の3日間にわたり、それぞれ1時間の内容で実施いたしました。

1日目は八戸市の現状と高齢者福祉施策について私が担当し、生活支援体制整備事業の概要と本研修ワークショップの位置づけ、少子高齢化の状況など当市の状況、それを踏まえた当市における高齢者施策などについて説明を行い、最後にワークショップの参加にむけた注意点を伝えております。

2日目は地域包括ケアシステムの基礎理解について、八戸学院大学の大木先生より講義をしていただきました。学生にとっては既に学習していることの復習となる内容ですが、地域包括ケアシステムの内容を中心にご説明いただいております。

3日目のグループワークの基礎理解と基本的技能については、本日出席いただいている八戸学院大学の立石先生より講義をしていただきました。「魅力ある大学について考える」というテーマで実際にグループワークを行い、最後に全体発表を行うことで各グループから出た意見を共有しました。

また3日間の研修の中で欠席した学生については、立石先生にご協力をいただいて補講を行い、無事に受講を修了しております。

今年度の受講修了者は、3年生3名、2年生1名、1年生5名の合計9名となっており、昨年度以前に受講を修了している学生と合わせまして、現在在籍している学生で本研修の受講を修了しているのは27名となっております。

資料1-2から1-4につきましては、参考として、研修で使用した資料をお配りしておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

以上で議事1の説明を終わります。

■池田会長

ありがとうございます。

立石さん、もし補足等ありましたらお願ひいたします。

■立石委員

本来であれば、学生がもっと多く参加していただく機会になればと思いながら、毎年少なくて、申し訳ない思いもあるんですけど、基本的に参加している学生のほとんどが社会福祉士を目指す課程に所属しておりますので、意欲がある学生かなと思っておりました。

短大の方も声をかけてるんですけど、授業との絡みであったり、土日のイベントというところがなかなか難しいというお話をしたので、そのご協力がまだ得られないというか、なかなか忙しいというところがあるようです。

本当はもう少し人数がいれば、次回以降も参加していただけるんですけど、こちら側の課題としては、少し学生が少ないというところがありますので、今後少し増やしていきたいと思っておりました。

人間健康学科という学科で1学年大体100人ぐらいは在籍はしているんですけど、福祉だけじゃなくてスポーツ、そして養護教諭とか体育の教師を目指す学生、そして心理、社会福祉もそうですけど、様々な分野があって、それぞれに興味関心が違うというところがあるので、なかなか全体に説明しても、手を挙げて行きたいっていうのはなくて、私の方である程度決め打ちといいますか、この学生なら来るかなっていうようなことで声をかけて来てもらっているということでした。

ワークショップアンケートの結果も見ると、結構学生の意見が参考になっているようなところもありましたので、今後もう少し学生の参加を多く呼び掛けながら、地域のイメージを持って参加してもらうようにしていきたいと思っておりました。以上です。

■池田会長

ありがとうございます。

何かの必修科目みたいになればいいですよね。ワークショップに参加すると単位がもらえるとかですね。社会福祉士だと、学科と合うような感じもしますね。そうすると、もしかすると全学部の学生がサポートになれる可能性もあるので、いいなと聞いていて思いました。

■立石委員

そう思っているんですけど、授業の単位というか。

ただ、やはり問題意識の低い学生も参加するとなると、ちょっとグループワークがうまく回らなかったりするというところがあるので、全部が全部っていうことでもないかなと思いました。

また、福祉が全然わからなくても、これによって興味関心が持てれば、何かのきっかけになればと思うので、少し幅広く今後は声をかけたいなと思っております。

あと一点、この研修自体が夕方の時間帯で、どうしても部活動が中心になる学校ではありますので、部活の時間になるっていうことと、あとはバスが4時で一応最終なんです。バスで通っている学生は帰るっていうところがあって、4時以降、学生がほとんどいなくなるっていうのが本学の特徴としてあるので、ちょっと時間帯も、授業中ということであれば日中の時間帯で開催しながら、あるいは、3回のものを2回に短縮しながら、少し授業と合わせてやっていけば、受講者も増えるのではないかなというところがありましたので、そのあたりは今後ちょっとご検討いただければなと思っております。以上です。

■池田会長

意識レベルというのは、ちょっと難しいとこなんですね。

ありがとうございます。

学生がいろいろ社会に興味を持つということは、すごくいい活動なのでね。

卒業後、結構福祉に行かない人が多いっていうのをすごく感じていて、だからこそ、その楽しみを学生時代に体験してもらえば、もしかするとその後、福祉に携わってくれる可能性のある人が増えるのかなというのを思っていました。

その他、皆さんの方で何かご質問したいこととか、ありませんでしょうか。

では、次に進んでまいりたいと思います。

続きまして、住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について、事務局より説明をお願いいたします。

（2）住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告

■事務局（柏崎主査兼社会福祉士）

私からは、議事の2、住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの開催報告について、説明をさせていただきます。

このワークショップにつきましては、地域住民が自身の生活する地域の課題について、解決策やその実施方法、住民が力を発揮できることなどについて検討を行うことを通じて、地域活動の活性化、地域の助け合いの体制作りを推進するということを目的といたしまして、毎年3回程度開催をしているものでございます。

今年度は、第1回目を6月29日、日曜日に根城地区で、第2回目を7月13日、日曜日に柏崎地区でそれぞれ開催をいたしましたので、その内容について説明をさせていただきたいと思います。

それでは、まず根城地区の内容につきまして説明いたします。

資料は2-1をご覧ください。

6月29日、日曜日の10時から根城公民館において開催いたしました。

参加者は28名で、内訳といたしましては、地域関係者が20名、八戸学院大学の学生さんが6名、高齢者支援センターが2名となっております。

地域関係者につきましては、民生委員、町内会の他、地区の社会福祉協議会や福祉施設の職員、また地域で八百屋さんを経営されている事業者の方にもご参加いただきました。

概要は記載の通り、高齢福祉課と八戸学院大学の大木先生より話題提供を行い、メインとなるワークショップでは、根城地区の生活について考えるということをテーマにいたしまして、7名ずつ4グループに分かれて、地域における課題やその解決策について意見交換を行いました。

本日の当日資料として、写真が6枚ずつ付いた2枚組の資料をクリップ留めでお配りしておりますが、そちらが実際のワークショップの様子です。

第1回目の根城地区と第2回目の柏崎地区の写真が混じっておりますので、どの写真がどちらの内容かというのを区別しながら見ていただくことはできないんですが、まず1ページ目になりますように、7名ずつテーブルを囲んでグループワークを行います。

根城地区の課題というテーマに対して、自分の意見を手元にある付箋に書き出しながら、同じグループの人たちと意見交換をして共有をし、模造紙に貼りだしていく作業を行っています。

下のほうにある2枚の写真が少しのぞき込んだような写真になっておりますが、これが実際に模造紙に付箋を貼り出しながら意見交換をしているときの様子を写した写真です。

誰かが出した意見に対して、自分も追加で意見を付け足して説明をしたり、場合によつては席を離れて立ち歩きながら自由に付箋を貼ったり、なかには意見交換に没頭するあまり付箋を書く手が止まってしまって、付箋がなかなか出てこないというグループもあったり、ただ、それぞれのグループで活発に意見交換、情報交換をしながら声が飛び交っている様子で行われているなと思っておりました。

2枚目の写真のほうになりますが、これが実際に出来上がったものをグループごとに発表している様子になります。

実際に完成した模造紙の写真を下のほうに二つD、Aと書いてあるものの写真を掲載しますが、同じような意見同士を丸で囲みながらグループ分けをして、どのような属性の意見が出たかというのを見やすいうまくまとめる形となっております。

それでは資料2-1に戻っていただき、1ページ目の下半分からです。

各グループから出された意見の主なものを属性別にまとめてありますので、ご紹介してまいりたいと思います。

まずは、道路交通や公園、施設といったインフラや居住環境に関してですが、道路や駐車場に穴が空いている、歩道が狭いといった道路事業に関するご意見や、遊び場や飲食店等の施設が少ないという意見、公園やゴミ捨て場の管理が十分にできていないといった生活環境に関する意見等が出ておりました。

次に空き家に関してですが、空き家については根城地区に限らず、八戸市全体としての課題となっておりますが、地域の中に空き家が増えてきたという意見の他、高齢者で独り暮らしになった後の自宅の維持管理に不安があるといった今後の不安に関する意見なども聞かれました。これに関しましては、空き家を子どもや高齢者の立ち寄れる場所として活用できれば良いのではといった、今後の活用方法に関する提案のような意見も出ておりました。

続きまして、住民同士の交流や町内会地域行事に関してですが、近所での交流や人付き

合いが少なくなってきたという意見や、それに伴い、災害発生時の対応に不安を抱く意見なども聞かれております。挨拶運動や一声運動など、身近なことでできることから始めてみてはどうかというご意見ですとか、町内会への加入を勧める上で魅力あるイベント作り、またその周知方法を工夫していく必要があるといった意見もきかれております。

次に、子どもに関してですが、子どもが参加できるイベントや遊び場が地域の中で減少しているという意見が出ていました。また、子どもだけでなくその保護者とのつながる機会がどうしても地域では少ないということで、小中学校のPTAとどのようにつながりをもっていくかということを課題としてあげるような意見もでておりました。

次に生活に関してですが、高齢者で独り暮らしになってからの生活に不安を感じている方がやはり多くいらっしゃるなということを感じました。特に買い物や雪かき、ゴミ出し、病院受診といった、外出を伴うような生活場面において、不安を皆さん強く感じているなということを感じています。これにつきましては、ボランティアや、例えば出張販売など、身近な地域の助け合いの中で解決ができたら良いという意見が聞かれております。

最後に魅力発信というところに関してですが、若い世代の地元離れが進む中で、地元の良さを再認識してもらえるような発信の仕方を考えること、また外国人の受け入れを積極的に行っていく必要があるといった意見がでてきました。

今回出された意見につきましては、各参加者の皆様が、今後の生活や地域で活動を行う中の手がかりにしていただくほか、高齢者支援センターや市包括が事業を進める上での参考として活用していければと考えております。

次に、ワークショップに参加した方に記入いただいたアンケートの結果について、資料2-2でご説明をさせていただきます。

出席いただいた28名全員からアンケートにご回答いただきました。

居住地区や年代、地域における活動については、グラフの通りとなっております。

年齢については、学生を含めまして、20代から80代まで、割と満遍なくご出席いただけたように感じております。

2ページ目からは各設問に対しての回答内容となります。まず1. 参加した感想についてというところで、こちらについてはほとんどの方が「参加してよかったです」とご回答をいただきました。いただいたご意見につきましては、記載の通りとなっておりますが、普段関わる機会の少ない方や、様々な立場、年代の方と意見を交わすことで、純粋に楽しかったという意見ですとか、新しい発見や情報に触れることができてよかったです、という意見を多くいただいております。

2. 今後も継続すべきかという設問に関しましても、ほとんどの方が「継続すべき」とご回答いただきました。こちらについては、意見交換をする機会は必要だという意見が多く聞かれた他、具体的な対策まで動ければ良い、別の参加者で開催しても面白いといった今後の取り組みの手がかりになるようなご意見もいただいております。

3. 改善策についてですが、結果のフィードバックを求める声ですとか、内容を事前に知らせてもらえばもっと良かったというご意見をいただいております。

4. 学生が参加したことの印象について、地域関係者の方々に対して聞いた設問ですが、学生の皆さんが話し合いの進行ですとか、意見の取りまとめや発表など積極的に参加いただけたことに対して高く評価する意見がとても多かったです。

また、5. 地域の方と接しての印象について、今度は学生さんの方に聞いた設問になつておりますが、実際に地域の方に話を聞くことで気づきがとても多かったという意見が多かったです。それぞれにとって、とても良い結果につながったのではないかと感じております。

最後に7. その他の意見として、形骸的なものにならないように、施策を実行できる所までもっていければ良いというご意見をいたしました。先ほど説明をしていました、3. 継続すべきかの設問でも同様のご意見をいたしましたが、今後はワークショップの場で出た意見を、そこで聞いて終わりではなくて、高齢者支援センターと包括の方で連携をしながら、より良い地域活動に何か一つでもつなげられるものがないかというのも探しながら、そこにつなげていけるような取り組みに努めていければと感じています。

続きまして、柏崎地区で開催したワークショップについてご説明をいたします。

資料2-3をご覧ください。

7月13日、日曜日の10時から柏崎公民館で開催いたしました。

参加者は根城地区と同じく28名で、地域関係者が20名、学生が5名、高齢者支援センターが3名となっております。なお、地域関係者としまして、民生委員や町内会の方々の他、地域にあるハウスメーカーの職員の方ですとか、あと保護者の方と一緒に、中学生のお子さんがご参加いただきました。

開催概要は根城地区と同様となっております。

グループワークで出された意見ですが、道路交通、公園などのインフラに関しては、他の地区のワークショップでも聞かれた同様の意見の他、陸上トラックが欲しい、サッカー やバスケットのゴールのある公園が欲しいなど具体的な意見が出ていたのが印象的でした。ちなみにこの意見を出してくれたのは中学生のお子さんが出してくださった意見です。

また、障がいのある人でも移動しやすい道の整備や目の不自由な人でも買い物ができるお店など、さまざまな立場の方の視点に立って意見が出されていたというのも特徴的だなと感じました。

2ページにまいりまして、空き家に関してですが、やはり根城地区同様に、空き家に関しての課題意識は強いようで、どのように活用していくら良いのか、ということに関しての意見もいくつか聞かれております。

続いて、住民同士の交流、町内会、地域行事に関しては、他の地区同様に、住民同士の交流の機会を作っていく必要があるという意見が多かった他、町内会のあり方、今後の活動に関する意見が柏崎地区の場合は多かったように感じます。また、地域の行事や地域の行事の活性化や、伝統芸能文化をどのように継承していくのか、といった意見も聞かれました。

こどもに関しては、記載の通りとなっております。

また、柏崎地区では防災に関する意見もいくつか出ていたことと、インターネットやSNSの活用に関する意見や、若者の雇用創出に向けて企業を誘致する、といった意見も出ていたところが特徴的だと感じました。

出された意見につきましては、根城地区同様に、各参加者や高齢者支援センター、市包括それぞれの立場で今後に繋げていければと思っております。

次に、アンケートの結果について資料2-4をご覧ください。参加者28名中25名にご回答いただきました。

居住地区や年代、地域における活動についてはグラフの通りとなっております。

2ページにまいりまして、設問に対する回答になりますが、まず1. 参加した感想については、25名すべてが「参加してよかったです」と回答いただきました。いただいたご意見については根城地区同様に、いろいろな意見が聞けてよかったです、理解が深まったという意見が多かったように感じます。

2. 今後も継続すべきかにつきましても、ほとんどの方が「継続すべき」と回答いただ

き、今後どのように実践していけばよいのかを考えるきっかけになったなどの意見がありました。

3. 改善点についてですが、時間配分に関することや、どういった参加者を集めたらいいかという、参加者に関するご意見をいただいておりますので、可能なものについては、今後のワークショップの開催に活かしていければと思います。

そして4. 学生が参加したことの印象について地域の関係者の方に聞いた設問、また5. 地域の方と接した印象について学生の方に聞いた設問についても、他の地区同様に大変好印象で、直接対面で意見を交わす機会っていうのはなかなか少ない立場の方々になるので、地域の方々にとっても学生の皆さんにとってもとても有意義なものになっていたことが見て取れました。

今年度はあと2回、ワークショップの開催を予定しております、第3回は11月8日、土曜日に根岸公民館で、根岸地区を対象に開催します。第4回については、その翌日11月9日、日曜日に中居林地区を対象に、場所は総合保健センターの中の介護予防センターで開催を予定しておりますので、次回の第2回協議会において、開催した内容についてご報告をさせていただければと思います。

議事2に関する説明は以上になります。

■池田会長

はい、ありがとうございます。

私も柏崎の方に参加させていただいたんですけど、すごく面白いですね。

全然地域で違うなと思っていて、柏崎は結構特殊だったなっていうか、住んでいる人たちが困っていることとかが結構詳しく明確に出てるなっていうのは印象にあったかなと思っていました。

私もなんんですけど、荻ノ沢委員も出ていたので、もしよければ感想などありましたら。

■荻ノ沢委員

そうですね、地域でこんなに意見が違うんだなというのと、買い物だとか、コンビニはあるけど、ちょっと高いからスーパーがとかっていう話が出ていて、地区によって大分違うなと思いました。

こちらの地区だと、近くにコンビニもなくて買い物ができない。逆にこちらからすれば、それもプラスになるところもあるのかなと思ったりとか、結構考えさせられましたね。

■池田会長

そうですね。

内容を見ていただいても、根城地区とまた違って面白いなという感じでしたね。

立石委員は、実施されてる側の方なので、今までのを見ていただくと、違いとか何かすごくわかりやすいのかなと思っていて。

■立石委員

昨年度から担当させてもらいましたけれど、私としては実は難しさを感じながらやってるんですけど。今回2回実施しましたけど、実は進め方を少し変えていました、1回目の根城地区のほうは、課題を挙げてもらって、その課題について対応策を考えるという2段構えでやってたんですけど、課題にスポットすると、マイナスな意見がたくさん出るので、あそこが駄目だ、行政が何とかすべきみたいな感じで終わってしまうところがあったので、2回目は少し未来志向にしようと思って、今ある地域はもちろん課題もあるんでしょうけれど、魅力ある地域にするためにさらに何をすればいいかっていうようなワークにさせてもらったので、そのことで多分2回目の方が多く意見が出ていると思うんです。

課題っていうことに焦点を置くと、なかなか進まなくなるので、グループも何か暗くなっていたりするので、より未来志向で考えてもらうということで進めていって、そしたら柏崎地区の方では、もう既に魅力がある地域だっていうこともグループの中で理解をして、結構いろいろあるよねっていうような話も出ていて、新たに気づくということと、もっとこうしたらしいんじやないかっていう議論ができたのかなと思って、2回目の方は割と意見も活発に出されていたのかなと思います。

ただ、ちょっと学生が少なかったので、もう少しいれば変わったかなというところは思ったところでした。

なので、進め方でどうしても左右される部分があるかなというところと、冒頭の情報提供の部分で、じっくり説明しても、なかなかピンと来ないだろうなっていうところで、どちらかというと重きをワークショップの方において、時間配分も工夫していけば良いのかと。皆さんも既に前に模造紙があるので、何かやるんだなって感じで来ているので、そのあたりの時間配分というか、設定が必要なのかなと思っておりました。

あとは、学生についてというところでは、参加者がさっき言った通りなかなか増えているかということも、土日に重なるのでどうしても部活やらバイトで、その日によって急遽キャンセルっていうのもあったりするので、可能であれば平日の開催もあれば、授業で連れて行ってっていうところができるかなと思っているところでした。

あと学生も結構アンケートは多分、いいように書いたと思うんですけど、少数意見ではあるんですけど、やはりグループに入って、その地区の学生が良かったみたいな声も直接言われると、学生もショックを受けるので、遠方のところから来てる学生もいるので、もっと地域をわかった人に来てくれよみたいな話をされると、結構最初に折れてしまうという話も伺ってました。グループによって、どんな人がいるかっていうのもわからない中でやってるので、なかなか配慮しきれない部分ではあるんですけど、学生について、地域を越えて来てるというところも、あらかじめ周知はしなきやなと、そのあたりの配慮がこちら側でもう少し必要なかなと思っていました。

何回見ても、グループによって全然違うので、地区でも違うし、グループのいる人たちによっても、まとまり具合が違うというところがあって、その辺りの難しさがあるので、以前ご提案したかもしれないんですけど、可能であれば、生活支援コーディネーターの方々が各グループに入って、ファシリテーターというか、話し合いが他の方に行ったりしたときに、軌道修正してくれるような役割の方が各グループに1人いればいいんだろうなと思っていました。私も1人なので、4グループを回りきれないところもあるので、そういうところもやっていくと、活性化に繋がっていくのかなと思ってましたので、そういうところを少し今後工夫できるのかなと思っておりました。

最後になりますけど、せっかくこういった言語化して、課題を抽出しているところがありますので、ぜひ生活支援コーディネーターさんとかにも共有してもらいながら、地域でこんな課題が出てるよっていうことを認識してもらって、次の話し合いのときは、これをテーマにしようみたいな感じで、継続性のある、繋がりのあるものにしていくことが大事ですので、ぜひワークショップは年に1回かもしれないんですけど、その後、実際に地域で生活している方々はいるわけなので、ぜひそういったことで繋げながら、具体的に地域で考えて、住民主体の参加ができるといいのかなと思ってました。

ぜひ、その辺りは委員だけではなくて、行政も含めて進めていかないかなと思っておりましたので、よろしくお願いしたいなと思っております。以上です。

■池田会長

ありがとうございます。

最後に、水溜委員の方から、実際にあの中で関わっている方として、参加する中で何か気になったこととか、感想みたいなところでいただければと思います。

■水溜委員

よその地域はわからないんだけど、柏崎地区全体を見ながらというか、学生の方々と一緒にあのような意見交換がやれたっていうのはすごく良かったと思う。

地域に関しては、やはりイベント関係をやってる連合町内の方が主体で、その中では柏崎地区の場合は、お祭りの山車を6町内で作っている。そして、この間新しく建物を建ててもらって、さらに子どもたちがお祭りに引き子とか、太鼓をたたきにきたいという感じで、子どもたちが出る機会も多くある。その他、えんぶりも2町内でやっています。

連合町内で青年会をやったり、高齢者の集いの場というふうなのもお願いしていて、地区だけでなく、内丸、三八城の方も一緒に含めて、旧八戸の古い町並みっていうか、下町みたいな感じでの人との付き合いがすごくいいなと思います。そういう人間性のある地区があって、その中でみんなで声を掛けあって作りながら、一緒に携わっているのを、学生さんの方々も見てもらえばすごくいいなって考えてました。いい催し物だと思います。

やるとすれば、その時だけでなく、例えば公民館の文化祭とかで、ちょっと場所を作つてもらえるようにするのがいいかなって思うんです。何かの催し物にあやかって、このワークショップをやってもいいと思うんです。そのときだけ集まってくださいというとちょっと大変なので、聞いていてそう思うところもありました。

■池田会長

水溜委員が言ってくれたのは、お祭りがあって、そこにいろんな人たちが来た中で、ワークショップを開催すると、いろんな世代の子どもたちも来たりとか、親も来たりとか、いろんな形で膨らみを持った意見も聞けると思うんで、すごい素敵ですね。

本来はそうなれば、一番いいのかなと思うんですけどね。

ちなみにどういうお祭りがあるんですか。

■水溜委員

お祭りは三社大祭。えんぶりにしても、教えてくれる人にはそれなりに教わって、いろんな体験ができている。それこそ学校で教えてくれないことも教えてくれている。

■池田会長

お祭りがあるところって、いい意味でネットワークがあつていいのかもしれないですね。

ないところだと、なかなか接点がないですからね。小学校と高齢者なんて全くないですもんね。だから、そう考えると、今お祭りがある地域っていうのは、知らない間に地域ができている部分もあるのかもしれないですね。

ありがとうございます。

その他、何か皆さん質問はありますでしょうか。大丈夫でしょうか。

では、続きまして、生活支援コーディネーターの変更について事務局より説明をお願いいたします。

(3) 生活支援コーディネーターの変更

■事務局（柏崎主査兼社会福祉士）

それでは、議事3、生活支援コーディネーターの変更について説明をさせていただきます。資料3-1をご覧ください。

生活支援体制整備事業におきましては、市の役割として、主に協議体を設置すること、また、生活支援コーディネーターを配置すること、この大きく二つのことが求められております。

その中で、生活支援コーディネーターにつきましては、八戸市の包括支援センターと市内 12ヶ所の高齢者支援センターの専門職が兼務をする形で配置をしているところです。市包括のコーディネーターを第1層コーディネーターとし、市全体に係る事業の実施に向けた対応を、高齢者支援センターのコーディネーターを第2層コーディネーターとし、地域レベルでの活動をそれぞれ行い、相互に連携をしながら、地域における社会資源の開発、関係者同士のネットワークの構築、高齢者のニーズと社会資源のマッチング等の支援を行っております。

この度、配置職員の異動等があり、市包括および高齢者支援センターに配置しております、生活支援コーディネーターに変更がございましたので、その内容についてご報告をいたします。

まず市包括の第1層コーディネーターについてですが、社会福祉士の島田から保健師の佐藤へ変更となっております。

次に、高齢者支援センターの第2層コーディネーターについてですが、白銀南・鮫・南浜地区の瑞光園において、笹川主任介護支援専門員から中村社会福祉士へ、三八城・根城地区のみやぎにおいて、手倉森主任介護支援専門員から井上主任介護支援専門員へ、大館・東地区のみやぎにおいて、堀岡社会福祉士から坂本保健師へ、田面木・館・豊崎地区のハピネスやくらにおいて、大村社会福祉士から向中野社会福祉士へ、南郷地区のなんごうにおいて、佐々木看護師から古川主任介護支援専門員へそれぞれ変更となっております。

なお、引き継ぎなどにつきましては、これまで同様に、前任者やセンター内の他のコーディネーターからの引き継ぎを基本としつつ、必要に応じて、機会を捉えて市包括からの事業の説明を行っていきたいと考えております。

資料3-2につきましては、今回の変更を反映いたしました生活支援コーディネーターの一覧となっております。市包括に3名と、高齢者支援センターに各2名の合計27名体制となっております。

引き続き連携をしながら、本事業を推進していきたいと思います。

以上で議事3の説明を終わります。

■池田会長

ありがとうございます。

ただいまの説明に対して、ご意見ご質問ありますでしょうか。大丈夫でしょうか。

最後に時間もあるので、皆さんに今回の感想をお聞きして終わりにしたいと思っていました。では五十嵐委員から、お聞きできればと思います。

■五十嵐委員

ワークショップの方ですが、非常にいい活動を行ってみたいなので、ぜひこれを他の地区でも、継続してやれればいいんじゃないかなと思いますし、逆に社会福祉法人とか社会福祉施設も、いろんな社会資源を持っているので、そういうものもご活用いただいていけば、もっと幅が広がるような気もするので、期待したいなと思いました。

あと生活支援コーディネーターの方は、なかなか人を見つけるのも大変で、うちもようやく見つけたばかりなので、これから活動を始めていければいいなと思っておりました。

こういった体制の整備を市が先導して、されているというのは非常に大事なことだし、これからもっと重要性が高まるんじゃないかというふうに感じました。以上です。

■池田会長

ありがとうございます。続いて荻ノ沢委員からお願ひします。

■荻ノ沢委員

ワークショップで出た課題とかそういったところで、私達センターの方では次の会議に

つなげてという形で去年からやり始めて、なかなか形になるまでは時間がかかるかなと思
いながら、でも無駄にしないようにやっていきたいなと思って活動していました。

今回、柏崎地区のワークショップの方も見学させてもらって、いろんな意見とか刺激を
いただいたので、そういったところも参考にしながら、いろいろ考えていくべきなと思つ
ていました。

■池田会長

ありがとうございます。

加藤委員、今回初めてで、なかなかまだ状況が読めないところもありながら参加されて
ると思うんですけど、参加してみて、何か感想みたいなところがありましたら。

■加藤委員

すごくいいことをするなと安心しました。

各地域の意見などを聞いて、高齢の方とか若い方とか、一方に偏らないように、ちゃんと
若者の意見とともにワークショップで出ているのが見れて、すごく良かったです。

私も八戸にやはり不満はいろいろあります。まず、映画館がないというのが、どうしても
映画館が欲しいなっていうところと、あとやはり買い物難民のこともありまして、是川
地区などは、生協でお買い物バスを出してるんですけど、そういうところの対応とかもあ
ります。

あとコープ青森としてではなく、私の一理事としての思いというか、空き家とかを活用
したサロンのような、誰が来てもいい、お年寄りも子どもも誰でも自由に行き来できるサ
ロンみたいなところがあればいいなと思っていたので、このワークショップで空き家の活
用というのがあったのが、どうにかうまくできないかなと。結構、街中でも空き店舗が多
くて、その辺をどうにかできないかなとか。街ならお年寄りも子どもも学生も来れると思
うので、そういうところをどうにか活用できたらなと思っておりました。

この機会に関わらせていただいて、とても喜んでおります。これからもよろしくお願ひ
します。

■池田会長

よろしくお願ひします。ありがとうございます。

続きまして水溜委員の方で、ありましたらお願ひします。

■水溜委員

これからはやはり空き家問題で、それを調査したことがあるんですよ。街中でも結構あ
るんですね。高齢者のお年寄りの夫婦が亡くなつて、子ども夫婦が近くにいないとい
うのが空き家の原因ですね。もったいないくらい新しい家が、というのも結構あります。これ
らを何かに使えたならなと思うことが多いです。その問題は、高齢者だけでなく、人口が少
なくなってくるから、一番の大きな課題になつてくるんじゃないかなと感じています。

そして、こういうふうに集まってお話しする機会が絶対あるべきだし、また、学生さん
たちも1回、こういうふうな集まりで私達委員と一緒に、話し合う機会があつてもいいん
じゃないのかなと思います。意見を聞いてみたいです。

■池田会長

ありがとうございます。

立石委員の方からお願ひいたします。

■立石委員

地域包括ケアシステムの実現ということで、ここ数年取り組まれていると思うんですけど、
なかなか地域によって違いがあるなと思っています。

ただ、今回参加させていただいた柏崎地区とかも、そもそも魅力のある地域だといふこ

とで、やってることも結構ある。ただ、その認識があまり伝わってなかつたりということがあるので、ああいった機会に、できるよね、というのも確認して、そこをうまく活用しながら、地域住民の方々だけじゃなくて、コーポさんのような事業所の方にも入つてもらいながら、あそこの空き家ちょっと使えるんだよねって言ったときに、何か展開が見えるような形ですとか、社会福祉法人でも地域貢献もあるでしょうから、その辺りでマッチングがうまくいけば、居場所作りであつたり、さまざまなことが動き出すきっかけにもなるのかなと思います。

ぜひこういった機会を通して、地域に根ざしたような事業展開もしていただくと、おそらくもっと地域が豊かになっていくのかなと思います。

もちろん行政の施策の中にも盛り込んでいただいたらしく、いろいろな情報を共有する仕組みを作つてもらつたりっていうのが必要かなと思いますので、いろんな機関が連携しながらやっていくことが大切なと思います。

その中に学生もいて、気づき、今すぐ芽が出ないかもしれないんですけど、地域って何とかしなきゃないんだなという想いで、もしかしたらそういった仕事に就く学生もいるかもしないので、そういう点で学校にとっても良い機会になりますので、参加させていただきながら、ゆくゆくはここに参加した学生が地域を引っ張つていけるような、人材育成にも繋がればいいのかなというふうに思つておりますので、引き続き参加させていただきながら、活動していきたいと思っております。引き続きよろしくお願ひします。

■池田会長

よろしくお願ひいたします。

では、中里副会長お願ひします。

■中里副会長

社会福祉協議会でも地区懇談会というのを年に2、3回やつてゐるんですけど、今日のワークショップの持ち方がとても参考になりました。

私達もさつき立石委員がおっしゃつていたように、懇談会では、あれもできないこれもできない、うちの地区は何にもないという話で、そこからなかなか前に進まなかつたんですけど、ある時、私もワークショップってどうやって持つていつたらいいのかと調べたときに、少し話しやすい内容で、その地域の魅力をまず話してみましょうということをやつてゐる地区があつて、我が町自慢じゃないんですけど、うちの地区はこんないいところがあるよとか、うちの町内はこんなことをしているよというのを紹介するようなことから始めて、その後に、地区でどんな課題があるかという流れに持つていたら、割と皆さんいろいろなことを話してくれました。

例えば、こちらの町内では、こういうことができるというのを聞くと、うちの町内も真似しようかなとか、いろんな良い情報だつたり、参考になる情報が出てくるので、マイナスイメージじゃなくて、さつき先生おっしゃつたみたいに未来志向でお話ができるようなワークショップというのはいいなということを今日改めて実感いたしました。

私達も、社協に実習生が年に2回くらい来るんですけど、ぜひ実習生も懇談会に参加させたいなというのを改めて思つましたので、実践してやっていきたいなと思います。

大変参考になりました。ありがとうございました。

■池田会長

ありがとうございます。

本日の案件は以上でございますが、他にご発言などは大丈夫ですか。

委員の皆様、本日は様々なご意見をいただきありがとうございました。

グループワークショップをいろんなところでやっていくと、そこそこの色があり、そ

の中でいろんな人たちが見えてくるということも、回を重ねるごとにわかってきているのかなというのが、今回の私の感想になります。

引き続きですね、立石委員が言っていたように未来を感じられるようなワークショップを目指しながら、チャレンジできればいいのかなと思います。

これをもちまして議事を終了し、進行を事務局へお渡ししたいと思います。

次第4. 閉会

■司会（沼岡地域包括支援センター所長）

池田会長ありがとうございました。

また、委員の皆様もたくさんいろいろなご意見、ご感想などをありがとうございました。

私も今年度初めてワークショップなど参加させていただき、このような会議にも出席させていただきました。地域を作っていくことは、なかなかすぐにはできないことなんですが、皆さんから本日頂戴した意見をもとに、未来志向で考えていきたいなというふうに感じたところでした。ありがとうございます。

次回、2回目の協議会の日程のご案内になるのですが、令和8年2月4日、水曜日の10時からを予定してございます。後日、文書にてご連絡させていただきますが、取り急ぎ皆様の日程の確保をよろしくお願ひいたします。

また本日、当日資料としてお渡ししました、ワークショップの写真の方ですが、こちらで回収させていただきたいと思いますので、お席のほうに置いたままお帰りいただきますようお願いいたします。

それでは、これをもちまして、令和7年度第1回八戸市生活支援体制整備推進協議会を閉会いたします。

委員の皆様、大変ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いします。